第二十一回

大津町農業委員会

令和七年三月十日

第21回大津町農業委員会定例総会議事録

1. 開催日時 令和7年3月10日(月) 9:23から10:40

2. 場所 大津町役場 2階 町民協働ルーム

3. 出席農業委員 (12人)

1番 古庄 廣継	2番 東 一夫	3番 西村 千香
4番 藤本 勝昭	5番 宮崎 京子	6番 宮崎 恵美
7番 府内 公生	8番 岩本 勝	9番 今村 太
10番 大村 礼美	11番 荒木 博文	12番 津田 恵美

出席農地利用最適化農業委員 (3人)

5番 大田黒 淳次	9番 石原 龍二	11番 和田 勇一郎
-----------	----------	------------

4. 欠席農業委員 (0人)

欠席推進委員 (1人) 14番 坂本 千海

5. 議事日程

日程第1	開 会
日程第2	議事録署名委員の指名
日程第3	会期の決定について
日程第4	議案第1号 農地法第3条の規定による許可申請について
日程第5	議案第2号 農地法第5条の規定による許可申請について
日程第6	議案第3号 農地中間管理事業の推進に係る法律第18条第5項による 農用地利用集積等促進計画の意見について
日程第7	議案第4号 大津貸借料情報の公開について
日程第8	議案第5号 その他

6. 農業委員会事務局職員

事務局長 梅田 博隆 事務局次長 田上 克也 事務局 堀江 大成

7. 会議の概要 別紙のとおり

【令和7年3月10日 第21回定例総会議事録 別紙】

事務局 定刻まえですが皆さんお揃いですので、定例総会を始めてよろしいでしょうか。

それでは、荒木職務代理者から開会の宣言をお願いいたします。

職務代理 ご起立をお願いします。みなさん「おはようございます」。着席をお願いします。只今から令和7年3月、第21回定例総会を開会いたします。

事務局 日程第1、開会、開会に当たり、津田会長よりご挨拶をお願いいたします。

会 長 会長挨拶あり。

事務局 ありがとうございます。

続きまして、会議の成立ですが、本日は、農業委員全員が出席されておられますので、総会が成立していることをご報告いたします。

次に議長選出ですが、議事進行につきましては、会長をお願いします。

会 長 それでは、議長ということですので議事を進めさせていただきます。

日程第2、議事録署名委員の指名です。1番 古庄 廣継委員と2番 東一夫委員をお願いします。

日程第3、会期の決定についてです。お諮りします。3月の第21回定例総会は、本日1日を持って終了としたいと思いますが、ご意見はございませんか。

賛成の方は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。3月の第21回定例総会は本日1日をもって終了とします。

議案審議に入ります。日程第4、議案第1号を上程いたします。

事務局の説明を求めます。

事務局 それでは議案第1号、農地法第3条に係る申請についてご説明いたします。農地法3条では、調査書に記載した各項目に該当する場合、いわゆる農業者の要件を満たさない場合は許可できないとなっております。

令和5年4月1日に農地法が改正され、調査書1の第2項第5号が削除され

ています。いわゆる農地取得には50aの農地保有が必要であるという「下限面積要件」は廃止されました。

今後は、調査書の第2項第1号から第6号により判断することになります。

3条の1、調査書は1P、議案書は1P、申請地見取図は1P～2Pをお願いいたします。

申請地は大字瀬田地内にある農地2筆です。

申請理由は、売買による所有権の移転です。茶の栽培を予定されており、周辺農地の利用に支障はないものと考えられます。

調査書記載のとおり1号から6号まで該当する項目はないと思われま

す。以上、事務局の説明を終わります。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、瀬田地区ですので、東委員から説明をお願いします。

東委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。
申請地は大字瀬田地内の農地です。
申請の内容は、瀬田地内の畑2筆、3, 127㎡について売買による所有権の移転を行うものです。

譲受人は農業を営む法人で、申請地の近隣で茶を栽培しています。今回、譲渡人と譲受人双方で売買の話がまとまったため申請に至りました。農業機械等は所有する摘採機などを使用することとなっています。労働力、営農技術も問題ないと思われま

す。
現地調査後の小委員会審議では、全員異議なし「許可相当」の意見でした。
ご審議のほどよろしく申し上げます。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
瀬田地区担当は大田黒推進委員です。今回の申請についてご意見等はありませんか。

委員意見 ありません。

会 長 担当農業委員、最適化推進委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。
現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員のご意見です、ご質問等はありませんか。

(質問・異議なし)

許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)
全員賛成と認めます。

3条の1、売買による所有権の移転につきましては、許可と決定します。

続きまして、3条の2について事務局の説明を求めます。

事務局 3条の2、調査書は2P、申請地見取図は3P～4Pをお願いいたします。
申請地は大字瀬田地内にある農地5筆です。
申請理由は、売買による所有権の移転です。水稻の栽培を予定されており、周辺農地の利用に支障はないものと考えられます。
以上、事務局の説明を終わります。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、瀬田地区ですので、東委員から説明をお願いします。

東委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。
申請地は大字瀬田地内の農地です。
申請の内容は、瀬田地内の田5筆、2, 293㎡について売買による所有権の移転を行うものです。
譲受人は農家です。今回、譲渡人と譲受人双方で売買の話がまとまったため申請に至りました。農業機械等は所有する田植機を使用することとなっています。労働力、営農技術も問題ないと思われます。
現地調査後の小委員会審議では、全員異議なし「許可相当」の意見でした。
ご審議のほどよろしくをお願いします。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
瀬田地区担当は大田黒推進委員です。今回の申請についてご意見等はございませんか。

委員意見 瀬田地区は、昨年度から冬季湛水事業に取り組んでおり、申請地も貸借により譲受人が湛水事業を継続予定であり、耕作が継続される良い取り組みだと思えます。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。
現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員のご意見、ご質問等はありませんか。

石原委員 3条の1は法人での申請、3条の2は個人申請となっておりますが、法人と個人で別々の申請ですか。

事務局 ご指摘のとおりです。3条の1の法人の代表と3条の2の申請者は親子関係となります。3条の1は農地所有適格法人として作物栽培のため農地を取得するものです。3条の2の譲受人は代表権のない社員で、法人に勤務する兼業農家となり、湛水事業に取り組みながら水稻栽培を行う予定です。

会長 他にご意見、ご質問等はありませんか。

(質問・異議なし)

許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

3条の2、売買による所有権の移転につきましては、許可と決定します。

続きまして、3条の3について事務局の説明を求めます。

事務局 3条の3、調査書は3P、申請地見取図は5P～6Pをお願いいたします。申請地は大字矢護川地内にある農地3筆です。申請理由は、売買による所有権の移転です。そば及び麦の栽培を予定されており、周辺農地の利用に支障はないものと考えられます。以上、事務局の説明を終わります。

会長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、矢護川地区ですので、今村委員から説明をお願いします。

今村委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。申請地は大字矢護川地内の農地です。申請の内容は、矢護川地内の畑3筆、4, 809㎡について売買による所有権の移転を行うものです。譲受人は兼業農家であり、申請地の近くに所有する農機具の保管倉庫があります。今回、譲渡人と譲受人双方で売買の話がまとまったため申請に至りました。農業機械等は所有するトラクターを使用することとなっています。労働力、営農技術も問題ないと思われまます。現地調査後の小委員会審議では、全員異議なし「許可相当」の意見でした。ご審議のほどよろしくをお願いします。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
矢護川地区担当は坂本推進委員ですが本日欠席です。事務局で何か意見は預かっていますか。

事務局 坂本委員より「特に意見はありません」と連絡があっております。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。
現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員のご意見、ご質問等はありませんか。

(質問・異議なし)

許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

3条の3、売買による所有権の移転につきましては、許可と決定します。

3条の4と5は、営農型太陽光発電設置に伴う権利の設定ですので、5条の4の時に一括して審議します。

続きまして日程第5、議案第2号を上程いたします。
事務局の説明を求めます。

事務局 それでは、議案第2号、農地法第5条に係る申請についてご説明いたします。
議案書は4Pをお願いいたします。今回4件の申請がなされております。
5条の1 意見書(案)は6P、申請地見取図は9P～10Pをお願いいたします。

申請地は大字瀬田地内の農地です。

1の転用目的は植林への転用で所有権の移転です。

農地区分は、他の農地区分に該当しない、農業公共投資の対象となっていない10ha未満の小集団の生産性の低い農地となっていることから「第2種農地」です、代替地の検討もされており、転用は可能です。

以上、事務局の説明を終わります。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、瀬田地区ですので、東委員から説明をお願いします。

東委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。
申請地は、大字瀬田地内で、国道57号の南約150mに位置する農地です。
申請の内容は、申請地は元々、借り受けて茶の栽培をしていましたが、土地所有者と売買の話がまとまり購入することになりましたが、現地はラジコンのレースコースが隣接し、茶の栽培に適さず、今回「くぬぎ」を植林する計画です。申請地に隣接する所有者に説明がしてあり、農地および農地の分断はなく、日照、通風等への影響も問題ないと思われます。現地調査後の小委員会審議では、「許可相当」の意見でした。
ご審議のほどよろしくお願ひします。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
瀬田地区担当は大田黒推進委員です。今回の申請についてご意見等はございませんか。

委員意見 ありません。

会 長 担当農業委員、最適化推進委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。
現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員の、ご意見、ご質問等はありませんか。
(質問・異議なし)
許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。
(全員挙手)
全員賛成と認めます。

5条の1 植林への転用で所有権の移転については、原案のとおり可決とし、農業委員会の意見書を添えて許可権者である県へ提出ます。

続きまして、5条の2について事務局の説明を求めます。

事務局 5条の2 意見書(案)は7P、申請地見取図は11P~12Pをお願いいたします。
申請地は大字室地内の農地です。
1の転用目的は宅地拡張への転用で所有権の移転です。
農地の区分は、都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域内にある第1種低層住居専用地域となっていることから「第3種農地」に該当し、転用は可能です。

以上、事務局の説明を終わります。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、室地区ですので岩本委員から説明をお願いします。

岩本委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。
申請地は大字室地内で、室小学校の南 約100mの農地です。
申請の内容は、申請地は父親から贈与を受け、宅地として利用していましたが、今回、敷地調査、測量を行ったところ、申請地が名義変更されていないことが分かり、今回の申請となりました。
周辺は宅地に囲まれており、農地および農地の分断はなく、日照、通風等への影響も問題ないと思われます。現地調査後の小委員会審議では、「許可相当」の意見でした。
ご審議のほどよろしくをお願いします。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
室地区担当は石原推進委員です。今回の申請についてご意見等はございませんか。

委員意見 ありません。

会 長 担当農業委員、最適化推進委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。
現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員の、ご意見、ご質問等はありませんか。

荒木委員 贈与を受けてとの説明がありましたが、どなたが、どなたから贈与を受けたのですか。

事務局 譲渡人と譲受人は兄弟です。申請地は以前父親から贈与を受け、宅地として利用していましたが、敷地調査・測量を行ったところ、宅地の一部が弟名義のままになっていた部分が判明したため今回転用申請がなされたものです。

会 長 他にご意見等はございませんか。
(質問・異議なし)
許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。
(全員挙手)
全員賛成と認めます。

5条の2、宅地拡張への転用で所有権の移転については、原案のとおり可決とし、農業委員会の意見書を添えて許可権者である県へ提出します。

会 長 続きます。5条の3について事務局の説明を求めます。

事務局 5条の3 意見書(案)は8P、申請地見取図は13P～14Pをお願いいたします。

申請地は大字室地内の農地です。

1の転用目的は共同住宅への転用で使用貸借権の設定です。

農地の区分は、都市計画法第8条第1項第1号に規定する用途地域内にある第2種低層住居専用地域となっていることから「第3種農地」に該当し、転用は可能です。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、室地区ですので岩本委員から説明をお願いします。

岩本委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。

申請地は、大字室地内で、室小学校の南約100mに位置する農地です。

申請の内容は、申請地は上下水道が整備され住環境が整った土地です。共同住宅を整備し、家賃収入で所得の安定を図るため、今回の申請となりました。

申請地に隣接する農地所有者には説明がしており、日照、通風等への影響も問題ないと思われま。現地調査後の小委員会審議では、「許可相当」の意見でした。

ご審議のほどよろしく申し上げます。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。
室地区は石原推進委員です。今回の申請についてご意見等はございませんか。

委員意見 ありません。

会 長 担当農業委員、最適化推進委員の説明が終わりました。
それでは審議に入ります。

現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員の、ご意見、ご質問等はありませんか。

岩本委員 これまでの転用で多くの共同住宅申請・許可がなされているが、満室という状況はほとんどありません。この状況を町はどう捉えていますか。

農業委員として、共同住宅事業者に入居状況の話を聞くと、空き・満室に関わ

らず85%は最低保証しますという契約内容だそうです。他にも契約の内容に係ることは多々ある事と思います。

町は地主の判断なのでどうこうは言えないと思いますが、需要と供給のバランスが崩れている状況を町としてどのように見えていますか。

事務局 独立行政機関の農業委員会としては、町の立場での意見は言えませんが、共同住宅建設には多大な経費もかかりますので、地主さんと住宅会社で具体的なシュミレーションに基づく判断によって契約がなされていると思います。

これまでも多くの共同住宅の申請がなされ、今後も申請がなされると思いますが、土地も家賃も高騰し、若い方が大津町に住みにくい環境もあるとお聞きします。今回の申請のような用途地域である第3種農地は、町としても市街化を促す地域となっていることから、このような傾向は今後も続くのではないかと町長部局から聞いております。

荒木委員 規制はできないと思いますが。

事務局 用途地内は町が宅地化を促す地域となっており転用の規制はできません。その他、農業に影響が出るような地域では農業委員会が対応してくる必要があると思います。

会 長 他にご意見等はございませんか。

(質問・異議なし)

許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

5条の3、共同住宅への転用で使用貸借権の設定については、原案のとおり可決とし、農業委員会の意見書を添えて許可権者である県へ提出します。

続きまして、5条の4について事務局の説明を求めます。

事務局 5条の4、こちらは3条の3および3条の4と関連の案件になります。意見書(案)は9P、申請地見取図は15P~16Pをお願いいたします。申請地は大字高尾野地内の農地です。

1の転用目的は営農型太陽光発電設備への一時転用で貸借権の設定です。

農地の区分は、概ね10ha以上の規模の一団の農地の区域内にある第1種農地ですが、例外規定である仮設工作物の設置等に該当し転用は可能です。

許可後から3年間の一時転用です。

3条申請されている全体面積は、14,315㎡、そのうちパネル下部の農

地面積は6,800㎡、今回転用される支柱等の面積は、99㎡となっており可能です。

また、3条の4は耕作にかかる使用貸借権の設定、3条の5は農地上部における太陽光パネル設置のための区分地上権の設定でございます。

なお、営農型太陽光発電にかかる3条申請につきましては、5条申請との同時許可となりますので、「許可相当」とすることについてご審議いただくものであることを申し添えます。

以上、事務局の説明を終わります。

会 長 説明が終わりました。次に現地調査と小委員会の結果を、高尾野地区ですので古庄委員から説明をお願いします。

古庄委員 現地調査及び小委員会の報告をいたします。

申請地は、大字高尾野地内で、県道北外輪山大津線、通称ミルクロードから南へ約30mの中核工業団地南側の農地です。

申請の内容は、平成27年4月21日に一時転用許可を得た、営農型太陽光発電設備の4回目の一時転用更新です。

現在の栽培作物は「みょうが」となっております。農林水産省が定めた更新要件の収量要件を満たしており、農産物の状況報告も毎年提出されています。収穫および市場出荷もあり、病害対策や圃場管理も十分行われていることから、今後の営農状況の推移を見る必要はあるものの、継続および更新は妥当であると判断されます。

前回の更新以降、周辺農地への日照・通風等への影響があったとの意見も無かったことから問題ないと思われま。現地調査後の小委員会審議では「3年間の一時転用許可相当」の意見でした。

ご審議のほどよろしく申し上げます。

会 長 担当農業委員の説明が終わりました。

次に、最適化推進委員の意見がありましたらお願いいたします。

高尾野地区担当は和田推進委員です。今回の申請についてご意見等はございませんか。

委員意見 ありません。

会 長 担当農業委員、最適化推進委員の説明が終わりました。

それでは審議に入ります。

現地調査及び小委員会の結果は、「許可相当」の意見です。他の委員のご意見、ご質問等はありませんか。

(質問・異議なし)

許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

5条の4、営農型太陽光発電設備の一時転用の更新に伴う賃借権の設定については、原案のとおり可決とし、農業委員会の意見書を添えて許可権者である県へ提出します。

併せまして、関連案件であります3条の4および3条の5について、委員のご意見、ご質問等はありませんか。

(質問・異議なし)

それでは許可相当に賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

3条の4および3条の5、営農型太陽光発電設備にかかる使用賃借権・区分地上権の設定については原案のとおり可決とします。

続きまして日程第6、議案第3号について上程いたします。

事務局の説明を求めます。

事務局

国の法改正に伴い、令和7年4月から「農業経営基盤強化促進法」に基づく相対での利用権設定が廃止となり、「農地中間管理事業推進法」による利用権設定に統合・1本化されます。

これに先駆けて、昨年11月から議案の記載方法を変更しております。

以前は、基盤強化法による一括方式の議案と、中間管理事業推進法による再配分の議案を分けて上程していましたが、中間管理機構の様式が昨年11月から統一様式となりましたので1つの議案として上程しています。

左の番号の下に一括方式と再配分の区分を明記しています。

また、再配分については、「貸人」・「転貸人」・「前借人」・「借人」を記載し、所有者から公社が借り受け、その後担い手に貸付けた後、どの担い手に再配分したのかが分かるようにしております。

令和7年4月以降は、基盤強化法による利用権設定も、基盤強化法による所有権移転も、中間管理事業推進法による貸し借り及び売買(公社売買)となります。

それでは、議案第3号についてご説明いたします。

議案書は5P～8Pとなります。

議案第3号 農地中間管理機構の推進に係る法律第18条による農用地利用集積等促進計画(案)の決定についてご説明申し上げます。

今月の申請は9件で、1～8が一括方式となり、申出書面積の合計は36,571㎡(約3町7反)です。

貸人、転貸人、借人、経営面積、利用権を設定する農地等につきましては議案書に記載のとおりです。

番号9が再配分となります。中間管理機構(熊本県農業公社)が中間管理権を取得し、担い手経営体に貸し付けられていましたが、中間管理機構が中間管理事業推進法に基づき、新たな担い手に対し再配分計画により貸し付けるものです。

申出書面積の合計は3,344㎡(約3反)です。

貸人、転貸人、前借人、借人、経営面積、利用権を設定する農地等につきましては議案書に記載のとおりです。

審議の結果、今回の計画(案)が決定された場合は農地中間管理事業推進法第18条第11項の規定に基づき、中間管理機構に正式な計画書を作成するよう要請書を提出することになります。

今回の計画(案)は、農地中間管理事業の推進に関する法律第18条第5項第1号で規定する基本方針及び農地中間管理機構事業規定に適合し、設定を受ける者は同法同項2号で定める農地全てを効率的に耕作し、農作業にも常時従事すると認められると判断されます。

以上、事務局の説明を終わります。

会 長 事務局の説明が終わりました。

それでは審議に入ります。

農用地利用集積等促進計画(案)についてご意見・ご質問等はございませんか。

(意見・ご質問なし)

それでは、農地中間管理機構の農用地利用集積等促進計画(案)について、これを決定し、計画書作成を要請することに賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

議案第3号 農地中間管理機構の推進に係る法律第18条による農用地利用集積等促進計画(案)については、これを決定し、中間管理機構へ計画書作成を要請することとします。

続きまして日程第7、議案第4号について上程いたします。
事務局の説明を求めます。

事務局 それでは議案第4号、大津町賃借料情報の公表について説明いたします。
議案書の10～11Pをお願いします。
平成21年の農地法改正に伴い、それまで貸し借りの目安とされてきた「標準小作料」が廃止され、貸し借りに伴う料金は「賃借料」と定義されました。
改正後の農地法第52条の規定に基づき、農業委員会は暦年（1月～12月まで）の実勢の賃借料を集計し、情報提供することが義務付けられました。
議案書10ページをお願いします。
こちらが令和6年1月から令和6年12月までに公告された賃貸借における賃借料の集計結果になります。
平均値の算出方法としましては、年間の賃貸借全データの平均値を算出し、その平均値の前後70%を超えるデータを削除します。残ったデータの中での平均額、最高額、最低額を公表することになります。
農地の区分は各農業委員会によって異なりますが、大津町の場合は圃場整備実施、未実施の別を基準に、田（水稲）の部、畑（普通畑）の部、畑（飼料畑）の部3区分としております。
11ページは参考資料として10a当たり賃借料水準の過去5年間の推移を示しております。
なお、この「賃借料情報」は、実勢の集計値であり拘束力はなく、賃借料決定の参考として提供するものです。そのため、実際の契約の際には貸し手と借り手の両方で協議したうえで契約を締結していただくことになります。
以上、説明を終わります。

会長 説明が終了しました。ご質問・ご意見は、ございませんか。

石原委員 データ数は、賃貸借しているところは網羅していますか。
また、土地改良区等が取り組む湛水事業がありますが、10a当たりの単価は湛水事業の方が高いと思いますがいかがですか。

事務局 毎月の議案として提出している賃貸借は網羅していますが、システム上、著しく低い若しくは高い賃借料は除くことになっています。

荒木委員 湛水事業は夏季は最長45日間となっており、15日以上で16,000円/10a、30日までで19,000円/10a、45日までで22,000円/10aとなります（半月の15日で3,000円の増）。以前より価格が上昇しました。冬季湛水も同様の単価で3ヶ月（90日）ですと31,000円/10aという単価となります。

事務局 賃借料情報の公表は年間の10a当たりの単価となっており、湛水事業は営農を前提として地下水涵養を目的とする取組みです。単価だけの比較を行うと湛水事業が高い設定となります。

和田委員 農地の貸し借りは中間管理機構を通じた貸し借りに移行しますが、口頭契約での貸し借りはダメだということになっているのですか。

事務局 耕作目的での農地貸し借りは農地法第3条の許可を受ける必要があります、許可を受けない貸借は法的な効力は生じません。但し、本日の議案にもあります農地中間管理法の農用地利集積等促進計画による貸し借りは農地法3条の許可は必要ありません。実態としては親戚間等では口頭契約もあると思われるので、農業委員・推進委員で法に基づいた貸し借りを推進いただければと思います。

荒木委員 地域計画策定後は農用地利集積等促進計画による貸借が進展すると思います。

西村委員 中間管理機構の貸し借りは、機構が賃借料を設定するのですか。

事務局 原則は出し手の希望金額と受け手の希望金額を機構がマッチングする制度ですが、出し手と受け手での協議となります。

会 長 他にご意見・ご質問等はありませんか。

(意見・ご質問なし)

れでは、大津町賃借料情報の公表について、これを決定することに賛成の農業委員は、挙手をお願いします。

(全員挙手)

全員賛成と認めます。

議案第4号、大津町賃借料情報の公表につきましては、原案どおり承認・決定とします。

続きまして日程8、議案第5号を上程いたします。
その他について事務局から審議案件はありますか。

事務局 (事務局次長が資料を説明)
お手元に配布しております「R7. 3. 10 総会時 委員配布資料」をご覧ください。

(事務局次長が資料を説明)

- ・ 4月の現地調査及び小委員会予定について
案はR7. 4/3 (木) 午前9時00～
- ・ 4月の定例総会予定について
案はR7. 4/10 (木) 午前9時30～
- ・ 毎月の【農業委員会活動記録簿】の提出について

会長 他にございませんか。

荒木委員 遊休農地の対応は今後どうするのですか。担当地区の遊休農地のデータ提供をお願いいたします。

事務局 これまで事務局の職員が2名だったため十分な対応ができていませんでしたが、本年度は全地域の利用状況調査と意向調査の通知発出を行いました。今後非農地判断による非農地通知、また、嘱託登記による地目変更等まで取り組む必要があります。

遊休農地の大半は狭小・道路がない、鳥獣害、高齢化等の課題があり、耕作したくてもできないのが現状です。その中でも耕作できるような農地については、各委員へ情報提供し解消を図りたいと思います。

和田委員 農業新聞で地目変更の取組み記事が掲載されていた。この点はどうか。

事務局 6年度から人員が1名増えましたので、非農地通知だけでなく、嘱託登記による地目変更等まで取り組む必要があります。

大村委員 担当地域に狭小の棚田があり遊休農地となっています。所有者は圃場整備がないと解消は難しいとのこと。現在、県営圃場整備事業を推進していますが、地形や文化財の課題もあり事業予定地になるかどうか定かではありません。このような対応はどうすればいいでしょうか。

事務局 県営圃場整備の推進状況の推移を見ながら、事業地区にならなかった場合は、農振農用地の課題はあるものの、非農地判断等の取組みを考える必要があると思います。

会 長 他にございませんか。何もなければ、本日、農業委員会に付託してありました議事日程につきましては、すべて終了しました。最後に閉会を、荒木職務代理者をお願いします。

職務代理 これをもちまして、令和7年3月の第21回農業委員会定例総会を終了いたします。大変お疲れ様でした。

令和7年3月10日

本日の審議は、上記のとおり相違ないことを証明いたします。

議 長 津田 恵美

議事録署名委員 高 庄 廣 継

議事録署名委員 東 一 夫